

2023 年度 学校関係者評価

1. 学校関係者評価実施日

評価日時：2024 年 3 月 8 日（金）11:00～12:00

方法：対面

2. 学校関係者評価委員

規定	委員
医学教育に知見を有する者	静岡医療センター 総括診療部長
事務管理担当者	静岡医療センター 管理課長
看護管理に携わっている者	静岡医療センター 副看護部長
卒業生	静岡医療センター 看護師長

3. 評価結果

項目	評価内容
教育理念・目的・目標・教育課程・教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念・目的・目標は明示されている。 ・看護師は生涯学び続ける必要のある職業である。医師の指示のもと診療の補助を行うが自立して看護行為を実践する場面も多くある。自身の看護に責任を持つことが必要となる。看護学生は患者を守るためにも実践できる看護技術には制限が出ている。そのような中「看護を自立して提供する責任」を教育していくことが重要である。 ・新カリキュラム改正後、強化する学習内容に「倫理観」が示されている。看護実践には「倫理観」が重要となる。価値観が異なる学生に対し教育していったほしい。 ・アクティブラーニングなどの学習方法や色々な経験をすることが更に学習効果を上げるのではないかと。例えば、救急車に同乗する経験などにより、急性期看護の学びに繋がるうえに病院と家庭を繋げる場面を知る機会や地域医療との連携を学ぶ機会にもなる。ポートフォリオなども活用してはどうか。
組織・管理運営・施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・教育を行ううえで、適切な体制となっている。 ・教員が教育に専念ができるように業務分担を行えると良いが、人数配置には制約もあるため工夫できるとよい。 ・ICT に長けた専門家もいないため難しい状況にあると考えるが業務軽減のためにも ICT を活用できるとよい。
学生生活への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理、相談員の設置、就職支援など適切に行われている。引き続き支援できるとよい。
学生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の入学者（1 年生）が定員に満たなかった理由は、他校の定員数増員が要因の一つと考えることができる。また、社会人入試の応募者数が減少したことは、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことにより社会が動きを戻し働く場所が多くあることも要

項目	評価内容
	<p>因の一つと考えられる。各入試方法での人数枠の見直しを行ってはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの工夫など IT 活用を検討し広報活動を行うことが課題である。 ・どのような学生を育てたいかを明確にし、広報活動を検討してはどうか。また、受験生が自分の未来を見いだせるような広報活動を行ってはどうか。
卒業生の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の看護職への就職率は 100%となっており、就職支援はできている。 ・昨年度の卒業生は希望する病棟に就職しているが新人の離職率が上昇している。新型コロナウイルスの影響で臨地実習の経験が少ない学生であることが要因の 1 つと考えられる。臨地実習では考える力、コミュニケーション能力、乗り越える力が培われる。在学中に教育できるとよい。
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を行いながら社会貢献ができている。引き続き活動できるとよい。
研究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で年 1 回の研究発表ができていない状況にある。研究に取り組むことで教授活動や学生指導に活かせるのではないかと考える。
学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・自己評価が年 2 回行われている。また、昨年度の評価をふまえ今年度の取り組みがなされている。

2023年度 学校自己点検・自己評価(最終評価)

評価日 2024年2月22日

評価者 自己点検・自己評価ワーキングメンバー

静岡医療センター附属静岡看護学校

看護学校(三年課程)自己点検・自己評価表			評価			学校関係者評価					
評価項目			できて いる	一部 できて いる	できて いない	自己点検・自己評価(最終評価)					
大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)				できて いる	一部 できて いる	できて いない			
1 教育 理念 ・ 目 的 ・ 目 標	1) 学校の教育理念・目的・目標の設定	(1) 教育理念・教育目的は法との整合性がある。	○			教育理念・教育目的は「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」との整合性がある。教育理念・目的には国立病院機構附属看護学校としてその役割を明示しており、国立病院機構の求める看護師の育成と一致している。教育理念・目標をもとに期待する卒業生像については毎年始業時に学生に周知している。明文化し、便覧・教育課程(シラバス)およびホームページに明示している。教育理念・目的を常に意識できるよう、副校長室・教務室・各教室・実習室・講師控室に掲示している。またカリキュラム検討時には教育理念・目的を意識しながら行っている。かつ、入学時ガイダンス、授業や実習オリエンテーション、教科外活動を活用し、当校が目指す卒業生像を伝え、看護を学ぶ者としての態度を含め、指導や介入を行っている。	○				
		(2) 教育理念・目的を明文化している	○				○				
		(3) 教育理念・目的は看護教育についての考え方を示している(看護学・看護基礎教育の本質) 自養成所の教育上の特色を明示している	○				○				
		(4) 看護専門職(専門性・自律性・倫理性・判断力・実践力)が明示されている	○				○				
		(5) 教育観と学生観が明示されている	○				○				
		(6) 教育理念・目的は人材育成の内容と一致している	○				○				
		(7) 教育理念・目的・目標を学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	○				○				
		(8) 養成する看護師等が卒業時点において持つべき資質を明示している	○				○				
	2) 教育理念・目的・目標の達成	(9) 教職員は教育理念・目的・目標について認識し、共有している	○				○				
		(10) 教職員は、教育理念・目的・目標の達成に向けて努力している。	○				○				
		(11) 教育理念・目標は学生に浸透している	○				○				
		(12) 卒業時点に於いて期待する姿になっているかを評価している	○				○				
3) 教育理念・目的・目標の点検、見直し	(13) 教育理念・目的・目標と教育課程の考え方が一貫している	○			○						
	(14) 教育理念・目標は社会変化、ニーズに対応し年一回見直ししている	○			○						
程 2 教育 課	1) 教育課程の立案	(15) 教育課程は看護学の内容・求める学修の到達及び学生の成長発達について明確な考え方と根拠を持って編成されている	○			教育課程の考え方は、カリキュラム会議において育てたい卒業生像や看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標を照らし合わせながら設定した。学年が進むに伴い、基礎から専門へ、また専門から統合へ積み上げられる学習としている。科目目標に応じて、講義や演習の授業方法をとり、評価においても、筆記試験、技術試験、レポート等、評価方法を示している。科目では、保健医療論を設定し、国立病院機構が担う政策医療と地域医療構想をふまえた看護の実際を学んでいる。新カリキュラムでは、地域・在宅看護論の中に、地域が求める内容を入れるなど、地域に根差した学校であることを意識した。臨床判断能力の育成は、基礎看護学の全ての科目を統合し活用して学ぶ演習科目を設定し、授業内容を工夫しながら実施することができた。基礎的能力の育成に向けた内容の検討を引き続き行う。指定規則の基準を満たす内容であるが、指定規則より多い単位数となっている。これは、3年次の実習を教科し、実践力のある学生を育てる意図がある。	○				
		(16) 教育理念・目的・目標にあった科目設定をしている	○				○				
		(17) 教育課程・授業・評価に至り一貫性がある	○				○				
		(18) 科目設定には学校の特色を盛り込んでいる	○				○				
		(19) 科目設定には学習者・社会のニーズを考慮している	○				○				
		(20) 科目の一般目標・行動目標は明確に設定している	○				○				
		(21) 指定規則に合致した科目と単位・時間を設定している	○				○				
	2) 教育課程の効果的編成	(22) 教育理念・目標にあった順序性で科目を配列している	○				○				
		(23) 科目の位置づけと科目間の関連性を明示している	○				○				
	3) 教育課程の点検・見直し	(24) 教育課程の評価・見直しは定期的(年1回)に行っている	○				○				
		(25) 教育課程の見直しは学生・講師・教員の意見を反映している	○				○				
		(26) 教育課程を評価する体系が整っている	○				○				
		(27) 教育課程評価結果の活用において、倫理的配慮を行っている	○				○				
	3 教育 活 動 ・ 教 育 指 導 の あ り 方	1) 学習支援(ガイダンス)	(28) 年度初めにカリキュラムガイダンスを行っている	○				カリキュラム検討グループを編成し、年間計画においては、半期ごとに科目の評価・見直しを実施している。「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン看護教育の基本的な考え方」を基に当校で強化したい骨子を検討しカリキュラム改正を行っている。夏期・冬期の集中カリキュラム会議では、強化したい骨子の内容を再度共通理解、骨子の内容を学ぶことができる科目の整理を行い、意識して教授活動ができるように話し合いを行った。学生には評価結果が個人の成績に影響をされないことを説明し、無記名で評価を得ている。教育課程評価結果においては、講師会議等では講師が特定されないように提示し、院内の個人情報保護に関する規定と同様に対応している。	○		
			(29) 学生便覧は内容・構成が工夫して作成され、学生が活用している	○					○		
			(30) シラバスが作成され活用について学生に説明している	○					○		
			(31) 単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している	○					○		
			(32) 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている	○					○		
2) 授業の計画的遂行・調整			(33) 授業計画に基づいて授業は実施している	○			○				
		(34) 時間割の進捗は、授業計画通りに行われている	○			○					
		(35) 授業形態(講義・演習・実習)は、授業内容に応じて選択している	○			○					
		(36) 授業内容は精選され、学生のレディネスにそって構成されている	○			○					
		(37) 科目毎の授業内容を整理し、担当者へ周知している	○			○					
		(38) 1クラスの学生数は40人以下の構成である	○			○					
		3) 授業科目の担当・時間	(39) 科目を担当する講師は、その分野を教授するのにふさわしい人が担当している	○			○				
			(40) 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	○			○				
(41) 教員一人当たりの週授業時間は15時間以内である			○			○					
(42) 教員の実習担当時間数は3時間に1時間程度の準備時間が見込まれている	○				○						
(43) 教員が自ら成長出来るよう、自己研鑽のシステムを整えている	○				○						
4) 教育方法の工夫・研究	(44) 学生が自主的に考え、学習することが可能な授業形態が導入されている(少人数教育・ゼミなど)		○			○					
	(45) 視聴覚教育機器・教材の質と量は十分で、効果的に活用されている	○			○						
	(46) 効果的な教育方法について、検討の場をもっている(学内外)	○			○						
	(47) 備品は台帳記載がされ、定期的な点検や購入計画がされている	○			○						
	(48) 教育において日常的に教材研究を行っている	○			○						
	5) 臨地実習施設	(49) 実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保している	○			○					
(50) 実習施設は養成所の教育理念、教育目的、教育目標を理解している		○			○						
(51) 実習施設は学生の看護実践を支援する体制を整えている		○			○						
(52) 実習施設は実習目的を果たすために適切・妥当であるか定期的に見直ししている		○			○						
(53) 実習指導者は実習要項をもとに、実習指導案を立案・実施・評価している		○			○						

看護学校(三年課程)自己点検・自己評価表			評価			学校関係者評価			
評価項目									
大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	できて	一部できて	できていない	できて	一部できて	できていない	
			いる	いる	い	いる	いる	い	
		(54)実習指導者と教員は、役割分担を明確にして指導している	○			○			
6) 授業評価		(55) 教員は授業終了時に、評価表による学生からの評価を実施している	○			○			
		(56) 教員間での授業評価が行われている	○			○			
		(57) 教員自身による自己評価を実施している	○			○			
		(58) 評価結果に基づいて、実際に授業を改善している	○			○			
		(59) 評価結果活用システムが明確である	○			○			
7) 単位互換		(60) 大学・短大・専修学校への単位互換が可能な科目設定・時間設定である	○			○			
		(61) 大学(短大)卒の入学生に単位の認定制をとっている	○			○			
8) 成績評価・単位認定		(62) 評価の方法は試験・出席・学習状況・レポートにより行われている	○			○			
		(63) 単位認定のための評価基準と方法を公表している	○			○			
		(64) 進級・進級の基準を示し適用している	○			○			
		(65) 履修認定会議・進級判定会議は定期的に開催している	○			○			
4 組織・管理運営	1) 学校の組織と関連組織の整備	(66) 教員組織、事務組織は専任者が配置され、運営しやすい組織図ができて	○			○			
		(67) 教員組織は運営に必要な人数と職種が配置されている	○			○			
		(68) 教員は、看護教員養成課程を修了している。	○			○			
		(69) 教職員の選考、資格審査、任免、昇格等について明確になっている。	○			○			
		(70) 事務組織は運営に必要な人数が配置されている	○			○			
		(71) 各職員が命令系統に沿ってその役割を果たしている	○			○			
		(72) 教員の人事について副校長・教育主事は意見を具申している	○			○			
		(73) 管理者は教員に将来像を構想として示している	○			○			
	(74) 講師や実習指導者は明示した資格要件を元に選考している	○			○				
	2) 教員人事の適正配置		(75) 教員は看護学の専門領域毎に配置できている	○			○		
(76) 実習調整者は専任で配置されている			○			○			
(77) 教務助手は十分な臨床経験を有しているか			○			○			
3) 職員の職務分掌		(78) 職務分掌は作成している	○			○			
		(79) 職務分掌に沿って学校職員は各々の役割を果たしている	○			○			
		(80) 業務内容は効果的な職務遂行ができるよう適宜見直している	○			○			
4) 会議への参加運営		(81) 構成員として幹部会議に出席し、必要時意見を述べている	○			○			
		(82) 構成員として管理会議に出席し、必要時意見を述べている	○			○			
		(83) 学校運営会議は定期的に開催し機能している	○			○			
		(84) 教員会議は月2回以上定期的に開催している	○			○			
		(85) 講師会議は定期的に開催している	○			○			
5) 学籍の管理		(86) 学籍簿は学籍の記録、履修状況が正確に記載され、証明機能を備えている	○			○			
		(87) 学籍簿は保管が適切になされ、秘密が守られている	○			○			
6) 事業計画		(88) 学校の事業計画を立てている	○			○			
		(89) 事業計画は病院の全体計画の中に適切に位置づけられている	○			○			
		(90) 中・長期目標の予算計画が立てられている	○			○			
7) 予算の執行		(91) 年間の予算計画・執行状況を把握し、必要時修正している	○			○			
		(92) 職員は歳入歳出の状況を把握している	○			○			
8) 経営意識		(93) 職員全員が経営意識をもっている	○			○			
		(94) 在学生は定員の90%以上を充たしている	○			○			
		(95) 職員は歳出削減に向けて努力している	○			○			
支5 学生生活への	1) 健康管理	(96) 定期的に健康診断を実施している	○			○			
		(97) 学生が日常生活の健康管理ができるように指導している	○			○			
		(98) 臨地実習での感染防止の対策をとっている	○			○			
		(99) 健康記録は的確に記載し、活用している	○			○			
	2) 学生相談室、進路相談室の設置と対応		(100) 学生相談の窓口を設けていることを学生に周知している	○			○		
			(101) 学生相談の内容によって窓口(担当)を決めている	○			○		
			(102) プライバシーが保持されるシステムができています	○			○		
			(103) 学生相談の専任のカウンセラーをおいている	○			○		
	3) 課外活動・ボランティアの支援体制		(104) 課外活動に対する、教職員の支援・指導を受けることができる体制である	○			○		
			(105) ボランティア活動の支援体制ができています(情報提供、渉外、経費等)	○			○		
4) 自治会への支援		(106) 学生自治会室(含兼用)がある	○			○			
		(107) 学生の自治活動が円滑にいくために助言・指導している	○			○			
		(108) 他校と交流の機会をもっている	○			○			
5) 福利厚生(奨学金制度・学生宿舎・学生後援会等)		(109) 奨学金制度について学生に周知している	○			○			
		(110) 学生が学業を継続できる支援体制を多角的に整えている	○			○			
		・授業料減免制度 ・奨学金 ・カウンセリング ・既履修科目の認定	○			○			
		・傷害保険 ・同窓会との連携	○			○			
		・卒業、就職等の進路に関する相談、支援	○			○			
(111) 学則の中で授業料減免制度について学生に説明している	○			○					

看護学校(三年課程)自己点検・自己評価表			評価			学校関係者評価				
評価項目			できて いる	一部 できて いる	できて いない	自己点検・自己評価(最終評価)				
大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)				できて いる	一部 できて いる	できて いない		
		(112)学生宿舎を有し、管理責任者を置いている	○			○				
		(113)学生宿舎の運営は、学生が自主的に行っている	○			○				
6 施設 整備	1) 校舎の整備と 管理	(114)学生数に応じた施設基準を満たす設備がある (教室、看護学別の実習室、図書室、情報処理室、保健室、学生相談室、男女	○			学生数に応じ設置基準を満たす教室や設備があり、授業形態に合わせて使用できる。校内施設利用規程を作成規定している。 各教室にはパソコンやプロジェクター、黒板、ホワイトボード、マイク、DVDプレイヤーがある。Wi-Fi利用 できる教室を確保しコロナ禍における遠隔授業に対応している。 災害マニュアルを作成している。病院の災害訓練に参加した際に見直しを行い、災害時に使用する 確認表の修正を行った。また、年1回火災訓練を行っており、その際に消化器や消火ホースの点検 を行っている。	○			
		(115)グループ討議等ができる演習室を有している	○				○			
		(116)教室は視聴覚教材が使えるように整備されている	○				○			
		(117)校内施設利用規定は作成している(含む体育館)	○				○			
		(118)校内の施設利用は、学生の効果的な学習ができるよう配慮している	○				○			
		(119)学生ホールは整備され、憩いの場作りができています	○				○			
	(120)災害時を想定した設備点検・マニュアル作成がされている	○			○					
	2) 図書室の整備 と管理	(121)図書および資料は分野毎、領域毎に分類され整理されている	○				図書室は授業開始前、実習後も学習できる時間帯の7:50~17:50を開館している。図書は分野ごと に整理されている。図書司書を担当職員を13時から17時で配置し図書管理システムにより適切に 管理している。図書の保有数は指定規則を満たしており計画的に増補できている。図書室内には DVDプレイヤーがあり、必要に応じ学習に貸し出しできるようにしている。図書は夏季冬季休業前に 点検を行っている。	○		
		(122)蔵書数は学生数に見合った十分な冊数である	○					○		
		(123)専門分野は専門領域毎に計画的に増補している	○					○		
		(124)学術雑誌は指定基準以上の種類を有している	○					○		
		(125)視聴覚機器が整備されている	○					○		
		(126)図書と学術雑誌およびビデオ等の整備点検はできている	○					○		
		(127)司書を配置している	○					○		
		(128)学生が利用しやすい時間帯に開館している	○					○		
		(129)新刊図書の紹介をしている	○					○		
		(130)必要な図書増補の予算計画ができています	○					○		
	(131)文献検索のためのインターネットの設備がある	○			○					
3) 教材の整備と 管理	(132)教材教具は定期的に点検を行っている	○			教材教具は年1回購入計画を立て計画的に購入している。授業に使用する前、夏季休業期間前を利用 し点検を行っている。指定規則に沿って数は整備されている。	○				
	(133)専門領域毎に教育内容にあった教材を計画的に増補している	○				○				
	(134)器械器具、標本、模型は学生数に見合った十分な数を整備している	○				○				
	(135)ビデオ等、視聴覚教材は自己学習に使用できる	○				○				
	(136)教材購入の経費は年次毎に計画し増補している	○				○				
7 学生 の受 け入 れ	1) 学生募集の 方法	(137) 学校の教育理念・目標を反映した学生募集方針を定めている	○			入試委員会で推移と評価を行い、学生募集の方針を決定している。募集要項に入学定員や入学試験 制度や合格基準を記載している。推薦入試、社会人入試、一般入試(2回)の選抜方法を取っている。 学生数変更を機に質の高い学生確保を考え、推薦入試を指定校推薦から公募推薦へ変更した。	○			
		(138) 入学定員を明示している	○				○			
		(139) 推薦・社会人・一般入試制度の有無は明記している	○				○			
		(140)学生の状況を察知した多様な選抜方法を検討している	○				○			
	2) 入学者選抜 方法	(141) 合格基準は明確にしている	○				○			
		(142) 転入学の方法・基準を明文化している	○				○			
	3) 学生定員の質 的充足状況	(143) 入学試験の応募状況は定員の3倍以上である			○				○	
		(144) 合格者からの入学率は50%以上である	○				○			
		(145) 推薦入試の入学率は定員の40%程度である	○				○			
	4) 学生募集に関 する分析・評価 体制	(146) 入学試験委員会が定期的に開催されている	○				○			
(147) 志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされている		○			○					
8 卒業 生の 状況	1) 卒業生の進路	(148)卒業生の90%以上は看護職を選んでいる	○			令和5年度卒業予定者の看護職への就職希望者は100%である。内訳として自施設への就職は42 名、自施設以外の国立病院機構への就職者7名であり、国立病院機構への就職率は70%である。今 年度、期待する卒業生像と就職先での評価の妥当性を検討するために国立病院機構に就職した施設 を対象にアンケートを実施した。アンケート結果をふまえて今後の教授活動に活かしていく。看護実 践強化演習や卒業前演習を企画・実施し、卒業時の学生の看護実践能力を把握、評価、次年度へ の取り組みに繋げている。また入学して間もない学生を対象とし、NHO職員からWEBで入学のお祝い や今後の学校生活に向けた応援メッセージをいただく機会を作った。それにより組織やその連携を知る 機会にもなった。	○			
		(149)卒業時点での進路状況が、分類整理されている	○				○			
		(150)統計資料が経年的に整理され、活用されている	○				○			
		(151)卒業生の就職先との情報交換や調査の実施等が出来る体制を整えている	○				○			
		(152)卒業、就業にあたっての進路相談・指導体制が整っている。	○				○			
		(153)卒業状況は入学時状況と比較している(学生数の変動等)	○				○			
		(154)卒業時の学生の看護実践能力を把握している。	○				○			
	(155)期待する卒業生像と、就職先での評価は妥当である。	○			○					
	2) 資格取得(国家 試験)合格状況	(156)国家試験合格状況は、全国の平均合格率を上回っている					これまでの不合格者の分析をもとに計画的に1年次より国家試験対策を実施している。3学年統一解剖学 試験を行った。成績下位の学生には、3年次のグループワーク学習の見学、1問を理解するためのテキストの 活用などの学習方法の指導を行った。3年生には模擬試験の回答状況を分析し強化対策に活かした。	○		
		(157)不合格者の背景、特性を分類し、教育活動に活かしている	○					○		
9 社会 への 貢献	1) 地域との連携と 社会への啓蒙	(158)看護教育および看護の情報を公開し、広報活動を行っている	○			年3回当校の受験を考えている学生及び社会人を対象に学校説明や看護の知識や技術を体験でき る場を設けている。また、平日に随時学校見学を受け付けている。 学校祭は、今年度は一部一般公開を行った。今後、感染対策をふまえながら地域と関わりを模索し ていく。	○			
		(159)学校行事は地域性を考慮して教育計画に位置づけている	○				○			
		(160)地域への働きかけは社会のニーズに応じた内容である	○				○			
	2) 近隣関連施設 との連携	(161)近隣施設へのボランティア活動に積極的に参加している	○				公開講座を年3回開催し、生涯学習の場として開放している。また、清水町福祉介護課が推進してい る認知症サポーター養成講座を授業に取り入れている。	○		○
		(162)社会人および近隣施設の生涯教育の場として学校を開放している	○					○		
		(163)近隣関連施設との情報交換および連携システムができています	○					○		
	3) 国際的視野	(164)国際的視野を広げるための授業科目を設定している	○				科目で国際的視野を広める科目を設けている。また国際看護を経験している講師を依頼し具体的な 話を聞く機会を作っている。外国の文献も検索できるよう文献検索方法も教授している。	○		
		(165)国際的視野を広げるための学習ができる環境を整えている	○					○		
		(166)留学や海外において看護職に就くことを希望する学生に対応できる 体制を整えている	○					○		
10	1) 研究・研修活動 の財政面の整備	(167)研究費は研究計画を立案し、助成金の申請をしている	○			○				

看護学校(三年課程)自己点検・自己評価表			評価			学校関係者評価			
評価項目			できている	一部できている	できていない	できている	一部できている	できていない	
大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)				自己点検・自己評価(最終評価)			
研究・ 研修活動		(168)研究に必要な設備・機器を計画的に整備している	○			研究計画を立案し助成金を申請している。研究助成金25万円/人は研究計画書に基づき、自己の研究のための学会参加や研修参加および教材の購入等に役立てている。	○		
		(169)研究・研修への年間予算計画が設定されている	○				○		
	2) 教員の研究活動	(170)教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)している。	○			管内の学校合同(以下グループとする)での授業研究への参加や自己の研究に関連した学会や研修に参加できるように研究費の活用や業務調整にて支援している。また、専門領域の学会に参加および研修希望は、業務上可能な範囲で参加の支援をしている。教員全員が東海北陸支部内3校合同での授業研究を行っている。今年度は2名の教員が国立病院総合医学会で研究発表を行った。今後も各教員の研究能力向上に向けた活動を行い、教育実践につながるように対策を講じる。今年度は母体病院の指導者に成人看護学演習Ⅱの授業参観をしてもらい、授業内容や教授方法を見てもらった。今後も指導者と連携を図り、臨床看護研究に取り組む。	○		
		(171)教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている	○				○		
		(172)研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地がある	○				○		
		(173)教員は専門領域の研究活動に取り組んでいる	○				○		
		(174)教員の半数以上は年1回以上の研究発表を行っている		○			○		
		(175)教員は看護・教育関係の学会に所属している	○				○		
		(176)教員は臨床ナースと連携や交流を図り臨床看護研究に取り組んでいる		○			○		
	3) 研究成果の発表	(177)教員の半数以上は研究成果を過去2年以内に公表している(学会、投稿)	○			○			
		(178)学校は研究成果を年報、紀要や論文集などで発刊している	○			○			
	4) 研修活動への積極的参加と教員の活動	(179)教員は計画的・自主的に研修に参加している	○			教員はWEBを活用しながら研修に参加している。また実習指導者講習会の講師依頼や地域からの講習会の講師の依頼も受けている。	○		
		(180)教員は、専門領域の臨地実習、研修を実施している	○				○		
		(181)教員が研修に参加できるようシステム作りをしている	○				○		
(182)教員は対外的に講師としての役割を果たし、活動している		○			○				
1 1 学校 評価	1) 自己点検・評価体制	(183)自己点検・評価のシステムが作られている	○			自己点検・自己評価のシステムは作られている。(平成21年東海北陸グループ副学校長・教育主事協議会にて作成)ワーキングメンバーが全教員と協力して中間および年度末に評価を行う体制ができている。前年度の評価を活かし個々の役割に活かしている。評価結果はHPにて公開、概況書に掲載している。	○		
		(184)自己点検・評価に必要な基礎データ等の整備がなされている	○				○		
		(185)自己点検・評価を定期的に実施している	○				○		
		(186)自己点検・評価の結果を公表している	○				○		
		(187)評価を次年度に活かし改善している	○				○		
		(188)外部評価者の規準が明確である。	○				○		
		(189)自己点検・自己評価の活動は教職員に明確に理解されている。	○				○		

令和6年 3月 7日

NHO静岡医療センター附属静岡看護学校 第三者評価

合同会社 asterisk 柚 訪問看護ステーション菜桜 所長 長島 美雪

(前 沼津市立看護専門学校 教務主任)

全体	<p>1. 組織運営等の状況</p> <p>独立行政法人国立病院機構という全国規模の組織で運営されており、運営・責任体制が整備されている。職務分掌も整備されサービス管理が適切に行われている。自己点検・自己評価の結果や第三者評価者、講師会議の意見が学校運営の改善に活用されている。</p> <p>2. 授業等教育活動の状況</p> <p>新カリキュラムに適応し時代のニーズを捉えた、看護教育の基礎を培う教育内容を精選するために、教員全体で会議を重ね改善を行っている。また、研修会や学会への参加をして最新の情報を捉えている。加えて、東海北陸支部内の看護学校で研究に取り組み、臨床判断など重視されている学習内容を学生が学習できるよう具現化している。同系列の病院の先人や学内でも先輩達から自分達の将来像を実際に見聞きでき、タイムリーで効果的な連携がなされている。臨床看護師の授業への参加や実習施設と効果的なカンファレンスを行うなどの臨床との密接な関係を活かした前向きな取り組みも実践・計画されている。</p> <p>3. 指導、管理の状況</p> <p>学生の心身の健康管理が適切に実施され、カウンセラーの配置もされている。災害時の学校の役割の再認識と災害時の備えの見直しを行っている。</p> <p>4. 地域との連携協力の状況</p> <p>コロナの影響は第5類になっても感染拡大状況はあるため、公開講座や学生祭など慎重な再開となっている。感染予防をしつつ、一部公開としながら、インターネットも活用し地域との連携を図っている。</p> <p>5. 学生確保</p> <p>教育内容の充実を広報していくのが課題となっている。18歳人口の減少や大学の増加により学生確保が困難な状況がある。しかし、長く積み重ねられた教育と組織であり基盤が充実しているのを伝える工夫が必要である。</p>
1	<p>教育理念・教育目的・教育目標は、国立病院機構や社会のニーズおよび新カリキュラムの特徴などを捉えて検討されている。教育理念から教育目標まで一貫性があり、学校の将来構想を描いている。</p> <p>教育理念・教育目的・教育目標は、学生便覧、教育課程、実習要項に明示し、学生、保護者、関係者に周知している。</p> <p>講師控室や会議室、各教室、演習室など目につく箇所に掲示され、意識づけ</p>

	している。
2	<p>国立病院機構が担う政策医療と地域医療構想を踏まえた看護の実際が盛り込まれ、教育課程の考え方が明示されている。また、教員全員で夏季と冬季休業に集中してカリキュラム会議を行っている。強化したい骨子を検討し、教育内容を洗い出し、マトリクスを作成し、内容の重複がないよう科目間の関連性が共有できるようになっている。</p> <p>年間通して学生による授業評価や講師の意見、教員の意見を取り入れている。</p>
3	<p>骨子の一つである臨床判断を培うために、授業研究に取り組んでいる。実際に教員が患者になり、場面設定がされている。タナーの臨床判断の過程を背景にして、気づきで終わらず、状況(コンテクスト・背景・関係性)を踏まえた学習ができるようになっている。例えば、看護の基本である姿勢保持や疾患の程度の理解や対象の精神状態をベースに置き、急変の可能性が察知できるよう授業が組み立てられている。</p> <p>キャリアアップにも活かせる取り組みとして、年度初めの、期待と不安で胸いっぱいの新入生が、先輩の話を聞こう会で、認定看護師、助産師、副看護部長、教員など先輩からたくさん話を聞いている。アンケート結果からも、これから看護学生時代を過ごすにあたり、将来がイメージでき効果的であったと思われる。また、在校生には、臨地実習前に、上級生から下級生へのバージョンや病院バージョンで、先人と接し話を聞く機会があり、イメージ化や不安軽減、モチベーション維持に役立っている。</p> <p>病院機構の実習施設のスタッフが臨床においても、実習指導の役割を担うことが明記されているため、学校との密に連携をとれた実習指導ができています。</p> <p>進度表とともに看護学の授業では1コマずつの詳細なシラバスが作成されていて、順序性を考えた授業が進められるようになっている。年度当初に作成された授業の進行具合は、学科担当者により随時確認されている。</p> <p>授業研究が行われ、アクティブラーニングや反転授業の取り組みなど、授業の工夫がされ、教員会議などで情報共有がされている。</p>
4	<p>国立病院機構の基準に則った職務分掌や教職員配置がされている。</p> <p>将来構想を有し、管理者は教員に将来構想を説明し、教育経年別に将来像の構想に見合った役割を与え、必要時は面接の際に将来像について示している。</p> <p>また、各教員が年間の研修計画を立て、キャリアアップに向けて積極的に参加するなど、学校全体で取り組む体制を構築している。そこでは、国立病院機構で作成された、看護教員能力開発プログラム(TNAD)が活用され、教員が能力の向上に向けてキャリア開発ができるよう、一人ひとりの教員に対して達成度と課題が明示されている。</p>

	<p>新カリキュラムにおいて必要とされる実習指導教員が増員されるとより良いのではないかと思われる。</p>
5	<p>学生の健康診断やメンタルヘルスチェックを年2回行い、専任カウンセラーを配置し、心身の健康管理を行っている。また、健康チェックも継続して行い、掃除や消毒方法など感染予防を含めた寮生活への支援も行い、幅広い健康管理を行っている。</p>
6	<p>施設基準を満たしている。図書も学生の希望を取り入れ、興味関心のある書籍も補充されていると共に、文献検索のための医学中央雑誌も2回線分利用できるよう備えられ、充実している。</p> <p>教材の予算が確保されて購入できており、点検・整備も計画的にされている。図書館には図書司書役を担う職員の配置および図書管理システムで管理され、授業開始前や実習後も学習できる時間帯で使用できる。</p>
7	<p>入職して半年しての卒業生の評価を学校として就職先の病院からとることができている。卒業生は、まだ慣れるのにも精いっぱい状況がある中で仕事をしている状況が伺える。機構の先輩たちも、課題を提言してくれたり見守ったりして育てようという意思を感じ、アンケートが立ち止まる機会となっている。</p> <p>推薦入試の方法を見直し、社会人入試、一般入試方法の2回に変更等学生の確保について工夫している。今後も応募者数の増加を図っていくことが課題である。</p> <p>教育内容の充実や卒業生の満足度が高いという内容を、広報する活動に力を入れることを勧めたい。昨年度よりもホームページが頻繁に更新され内容が充実してきている。</p>
8	<p>卒業時に看護実践強化演習や卒業前演習を企画・実施し卒業時の到達状況を確認し、質の高い有資格者を地域に送り出している。</p> <p>国家試験合格率は96.3%（令和5年度）であり、全国の合格率を上回っている。</p> <p>卒業生の看護職への就職希望者は100%で、希望を達成している。</p> <p>就職後も在校生のために、入学のお祝いや今後の学校生活に向けた応援メッセージをもらう機会を設け、在校生との交流がある。</p> <p>卒業時のアンケートより、卒業生が本校で学んだことに誇りをもち満足しているが、個別のサポート体制を十分感じていない結果がでている。国家試験</p>

	<p>の学習を1年次より行い成績下位の学生には学習方法を指導したり、学年担当と教育主事が相談にのったり窓口も明確になっている。関わりもっているにも関わらず結果が低くなっているので分析が必要である。</p>
9	<p>ホームページを、適宜更新し、看護教育や看護の情報を公開している。高校からの学校訪問も受けつけ看護を体験できる機会とし積極的に広報活動を行っている。当校の受験を考えている学生に対して、公開講座とオープンキャンパス計画し、年3回実施した。</p> <p>学校祭は、感染症対策をして一部一般公開を行い、地域と関わりを持つ工夫をしている。</p> <p>清水町の大津波警報発令時の一時避難場所として体育館を提供しており、受入のための毛布などを備えていて、地域に貢献をしている。</p>
10	<p>医学中央雑誌に加えて、メディカル on-line も導入され、研究に必要な文献が検索しやすい環境が整っている。研究助成費が確保され、業務調整の支援により時間も確保され学会参加や研修参加がしやすく、東海北陸地区グループで研究する時間も確保されている。各教員の自主性に任せた年間計画により実施でき、発表の場も設けられ、東海北陸支部内3校合同で授業研究を行ったり、今年度は学会で研究発表をしている点も素晴らしい。</p> <p>母体病院の臨床指導看護師に演習の授業参観をしてもらい、授業内容と授業方法を見学してもらった。今後も臨床と看護研究をしていく取り組みの第1歩ともいえる。今後も、臨床と協力をしてより良いものを生み出していきたい。</p>
11	<p>自己点検・自己評価については、東海北陸グループで作成・見直しが行われている。</p> <p>各専門学校で中間評価と年度末に評価を実施し、第三者評価と合わせてホームページ上に公表している。</p> <p>学校関係者評価を実施し、次年度の学校運営のあり方について協議する場もっている。</p>